



10月園だより

2022年10月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

人間としての第一歩を踏み出す



0歳児から5歳児 行動の意味とその対応

小学館 今井 和子 氏

ようやく心地よい風が吹き秋の訪れを感じるようになりました。

先週の土曜日はお天気に恵まれ、キンモクセイの甘い香りに包まれながら、運動会を開催することができました。この日を迎えるまで、楽しみながら運動していた幼児組さんも、徐々に頑張る姿、挑戦しようとする姿を見せてくれました。ある子は、竹のぼりはできるから跳び箱に挑戦したい、と繰り返し繰り返し練習をしていました。運動会当日までには跳べなかったけれど、ひた向きに努力する姿は「できること」だけが成長の証ではないことをみんなに教えてくれました。運動会は終わっても、きっと跳べるようになるかと信じています。

10月はスポーツ・食欲・読書・芸術の秋。運動会の余韻を楽しみつつ、様々な活動を通して子ども達一人ひとりの心と身体の成長をサポートして参ります。



☆10月の予定☆

- 1日(土) 運動会(雨天時 8日)
- 4日(火) 避難訓練・0歳児健診
秋の健診(幼児組)
- 5日(水) 幼児身体計測
- 6日(木) 乳児身体計測
- 12日(水) 3歳秋の遠足
- 14日(金) 4・5歳秋の遠足
- 20日(木) 環境教室(雨天時 21日)
- 21日(金) 年長組5園交流(ゆり組)
(雨天の場合 11/8に延期)
- 25日(火) アポロ交流(ゆり組)・0歳児健診
秋の健診(乳児)

※17日・31日の月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆11月の主な予定☆

- 1日(火) 避難訓練・幼児身体計測
- 2日(水) 乳児身体計測
- 9日(水) 歯科健診
- 17日(木) 0歳児健診
- 29日(火) 0歳児健診
- 30日(水) アポロ交流(ゆり組)

※14日・28日の月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆お知らせ・お願い☆

○感染拡大防止の観点から引き続き、玄関先でのアルコール消毒(大人)と、登園後すぐのお子さまの手洗いをお願いいたします。

○お子さまに発熱や呼吸器症状等がある場合は登園を控えていただき症状によっては受診をして登園の可否の確認をお願いいたします。又、同居のご家族に発熱等の体調不良が認められる場合は、お子さんご家庭で様子を見ていただきますようお願いいたします。

○中野区からの要請により新型コロナウイルスに感染したお子さんがいた場合、他の疾患と同様にクラス名をお知らせすることになりました。様々ご意見はあるかと思いますが、ご理解の程、宜しくをお願いいたします。

○10/25(火)に療育センターアポロ園と5歳ゆり組との交流会を予定しております。新型コロナウイルスの感染状況により中止となる場合もございます。

○今年度、第三者評価を受審することになっております。利用者調査を行います。福祉サービスの質の向上を図るため、ご理解いただき、アンケートのご協力をお願いいたします。10/18(火)締め切りとなります。

○年間を通して保育参観・参加を受け付けております。午前中の給食前までとなります。ご希望の方は担任までお知らせください。

自立への旅立ちは 1歳児からはじまる

1歳を超えるころ、ひとりで立ち歩くようになります。歩くという、新しい力を獲得したことで、未知なる世界を確かめるようになり、人に頼らず、主体的に動き出すことが、自我の育ちへつながっていきます。立ち上がったことで手が自由になり、何でもさわって確かめるなど、新しいものへの興味はつきません。自由に探索や行動ができることで、探索心や好奇心も育ちます。意味のある言葉を獲得し、自我も芽生えます。自分が誰であるかわかると、子どもの思いやつもりは表情や行動に表れるので、行動をよく観察することが、1歳児を理解するうえで大切です。

また、基本的な生活習慣の基礎ができていく時期でもあります。靴下をはく、歯を磨くなど、大人に丁寧にやってもらったり、手助けしてもらいながら身につけていきます。丁寧にやってもらうことで、自分でできることは自分でやろう、という気持ちも育っていきます。何よりも大切にしたいことは、自分でやれることへの喜びにつなげていくことではないでしょうか。

悩み：

食べ物をグチャグチャにしたり
食べずに遊んでばかりで困ります

行動の意味：

好奇心からの遊び食べと、
飽きてしまったの
遊び食べがあります

食べさせることに力を注ぐのではなく、子どもがこぼしても、手づかみでも「自分で食べたい」という意欲を支えてあげることが大切です。「これは何だろう?」という、好奇心から食べ物をつかんだり、こねたりする遊び食べなら、肯定的に見てあげ、少しはやらせてあげましょう。食べる気持ちがなくなり、遊び出す場合は、それが習慣化しないように注意が必要。少しでも食べさせようと、子どもが遊んでいるところにごはんを持って行って食べさせようとする人もいますが、食事と遊びの区別がつかなくなってしまうので、それは避けるべきです。

対応法：

原因を見極め、飽きていたら
「もう、おしまい」

食べたくなくなったの遊び食べの場合、「もういないの?」と聞いて、食事を終わりにするか、子どもに判断させます。

「いない」と答えた場合は、戻ってきてもあげないということをわからせたくて席を立たせ、戻ってきても食べさせないようにします。これを3日も続ければ、遊び食べはしなくなります。ただし、食欲がなくての遊び食べは、なぜ食欲がないのかを考えましょう。おやつの量が多すぎる、食事の時間に差しつかえている、運動不足などが考えられるほか、食事の量が多すぎることもあります。子どもが食べられる量を加減し、食べられたときは「よく食べたね」とほめることで、食べる楽しみが生きる喜びにつながることを、伝えてあげましょう。

